

令和３年度選書・除籍の実績評価について

図書館協議会では、東久留米市立図書館の令和３年度選書・除籍について、別紙の評価フローに基づき、図書館が作成した「令和３年度選書・除籍について（報告）」を受け、評価を行いました。

なお、東久留米市立図書館では、令和３年度より選書と除籍の評価については、学識経験者や市民代表を含む外部委員会を設置し、定期的な評価を行うとしており、令和２年度の図書館協議会において協議した結果、新たな外部機関は設置せず、図書館協議会を評価機関として、実績評価を行うこととなりました。

評価の視点

- ・自身の専門領域や関心のある分野から見た図書館の選書や蔵書構成について
- ・令和３年度の選書の方向性に沿った選書がなされているか。
- ・令和３年度の収集計画では、対象者ごと（高齢者、ティーンズ世代、働く世代、子育て世代）に目標を設定しているが、設定に対して適切な選書がなされているか。
- ・課題について（市が考える課題に対する意見と、委員として課題と考えること）

【総 括】

選書・除籍において、公立図書館としての適切な運営がなされており、概ね収集方針に沿って蔵書構築ができていると考える。また、課題認識も適切になされている。

なお、複本の整理や、破損本、児童書の基本図書の買い替え等を行っていることは非常に大切だと考える。

【委員意見】

■ 令和３年度「選書の方向性」「資料収集計画」に沿った選書・除籍の実績について

- ・目標設定に対して概ね適切な選書がなされていると考える。
- ・利用実績のみを重視した選書に偏らないよう留意してほしい。
- ・各館ごとに、地域の実情や各学校の特色等に留意した選書も必要だと考える。
- ・市民が潜在的にもつ具体的な困りごと（課題）から、目的となる書籍を探すことができるようになるための工夫をしてほしい。
- ・ロングセラーの名著を核とする蔵書構成は適切だと考える。また、個人では購入が難しい高価な図鑑が充実していることは評価できる。
- ・蔵書に占める文学の割合が高いと感じるが、読み物以外の基本図書の充実を図っていることはよいと思う。

- ・スペースの制約はあると思うが、児童書の基本図書や推薦図書は全館に備えてほしい。
- ・ディスレクシアの子ども等に対しては、DAISY 図書の充実と学校への紹介をしてほしい。
- ・学校図書館貸出資料用の図書について、選書の方法や内容について報告してほしい。
- ・高齢者や働く世代については、平板な印象を受ける。範囲設定が広いことが要因かもしれないため、様々なテーマを設定し、所蔵を勘案した上で選書を行う必要がある。
- ・高齢者に対しては、多種多様な情報の中、正確な情報を得るためにもエビデンスに留意していることが重要と考える。
- ・ティーンズ世代については、子どもたちが自ら調べるために活用しやすい本が選書されており、キャリア教育の視点からも幅広い分野の進路選択に関わる資料を収集していると思う。
- ・昨今、様々な世代において本と同様にオーディオブック（音声コンテンツ）が利用されていることも検討に加えてほしい。
- ・情報活用等のための資料について、全国組織の指定管理者として、保有している様々な情報・技術を生かし、未利用者も含め幅広い市民に届くような高度な図書館サービスがなされることを期待する。

■ 専門領域や関心のある分野から

- ・リストを見る限り、少し入門書、初心者向けに偏っている印象を受ける。
- ・経済関連の書籍では、入門書から学術書まで幅広く選書しており、かつ時代性のある書籍も一定数あり、バランスのとれた蔵書構成だと思う。
- ・障害分野の選書については、実践の報告や保護者の悩みなどについての書籍も需要は多いと考える。
- ・地理分野では「アフリカ」、社会科学分野では「リカレント教育」なども今後の動向を注目するうちの一つに加えてほしい。
- ・教育専門書が少ない印象を受ける。また、辞典類を充実してほしい。
- ・東久留米市の特色（風土・文化等）に関連する資料に重点をおいてほしい。
- ・児童書については、基本図書をベースとする考え方は評価できる。なお、児童サービスの実践と結びついた選書スキルの拡充を望む。
- ・ハンディキャップ資料については、様々な手段による情報収集や調査研究を進めるとともに、引き続きバリアフリーコーナー等により啓発に取り組んでほしい。
- ・選書に活かすために、カウンターでのレファレンス記録等の共有を徹底する必要がある。
- ・テーマ展示の実施は、利用者や未利用者への働きかけに有効であると同時に、司書にとってもスキルアップの機会であり、資料や利用者を把握するよい手段であると思う。SNS での発信等も含め、発展させてほしい。

- ・貸出ベストの確認も選書のチェックとなると考える。

【令和4年度へ向けた課題】

図書館の選書・除籍においては、中長期的な視点は欠かせないものであり、収容能力に限りがあることや、指定管理者の指定管理期間等も踏まえ、年度単位だけでなく、今後を見据えた図書館の蔵書（コレクション）を構築していく必要がある。

選書においては、多くの市民の文化的な生活に必要な公益性の高い書籍の選書と、個別の娯楽や個人のスキルアップ等のための書籍の選書（利用頻度からの選書等）は、選書基準を分けて考える必要がある。また、図書館の蔵書とするものと個人購入のバランスや、時代によって本の評価やストック（保存及び長期に利用する基本図書）とフロー（比較的短期間で入れ替わる図書）が変化していくことにも留意が必要である。

選書の基盤のひとつであるニーズ把握の方法としては、フロアワークにより利用者と直接接する機会を確保し、特に、児童サービスやヤングアダルト（ティーンズ）サービスでは、児童・生徒等の生の声を聴く機会があるとよいのではないか。また、出版業界や書店員等と意見交換する場を設けることも検討してほしい。

図書館には、課題解決のための手助けや、必要な人に必要な時に必要な資料や情報・サービスを提供する役割がある。自身で得ること、持てることができる人と、自身では得ることができず、持てない、購入が難しい人がいるという視点を持ち、デジタルデバイド（情報格差）への対応や障害、年齢、貧困等により情報を得ることができない人への支援も忘れてはならない。

実務においては、選書スキルの向上が求められる。また、4館を一元化した資料管理の実現が課題であり、各館の司書が、自館だけでなく市の図書館全体を俯瞰してみることができ、理解を深めるための方策を検討する必要がある。

図書館の蔵書は、選書・除籍の結果であり、利用や貸出実績を想定した蔵書となりがちな側面がある。報告の中で、選書において利用状況や市場の動向等が反映されがちな傾向が指摘されているが、利用実績で図書館評価がなされる限り、こうした傾向はやむを得ないことでもある。しかし、利用や貸出実績以外の評価や数値に寄らない評価の在り方について検討する必要がある。

また、統計には表れない事柄、例えば未利用者の中には図書館のハードルが高い人がいること等についても留意する必要がある。

【評価フロー】（令和３年度）

- I 選書の方向性、収集計画の確認（第１回図書館協議会）
図書館が示した当該年度の選書計画に基づき、選書の方向性、収集計画の確認を行う。
- II 中間確認（第２回図書館協議会）
図書館が作成した中間報告（期限を区切って抽出した購入及び除籍リストを含む）を確認する。
- III 実績評価（第３回図書館協議会）
図書館による選書・除籍の報告を受け、実績を評価する。なお、必要に応じてヒアリングを実施する。